

インタビュー

「明日を拓く」

第237回

依存問題への取り組みが業界の緊急課題となっている。パチンコ・パチスロ産業21世紀会は4月17日に「依存（のめり込み）問題・置引き対策等研修会」を東京で開き、これを皮切りに業界全体での啓発活動に努めていく動きになっている。その中で日工組はいち早く射幸性の抑制による「のめり込み」対策を提起し、一方で日遊協へ団体加盟を決めるなど最近の動きが注目されている。金沢全求理事長にこれからの遊技機開発、これからの業界団体の行き方を聞いた。

かなざわ・ぜんきゅう

1954年生まれ。愛知県出身。名城大学商学部卒。77年(株)三洋物産入社。2012年同社代表取締役副社長。15年2月代表取締役社長。13年5月から日工組理事長。

射幸性を抑えた遊技機の多様化に自信をみせる金沢全求日工組理事長

日工組理事長

金沢全求氏

聞き手＝「日遊協」編集部

射幸性だけに頼らなくても やつていく自信あります

ゲスト

——日工組の「のめり込み」対策について」では、射幸性の抑制に向けた取り組みとして①新台開発での消費金額の抑制②多種多様な遊技機の開発及び提供——が挙げられています。改めてその背景、決定の経緯なども含めてご説明いただけますか。

高い消費金額の粗い機械のために多くのファンを失う

金沢 ここ数年の間のパチンコファンの大幅な減少の中で、マニアックな一攫千金を求めるファンが依然存症と言われています。世間からは、パチンコ業界はどうなっているのか、と言われていきます。この間いわゆる「大衆娯楽」という範疇でパチンコを楽しんでいたファンの方々は、正直、かなり減りました。

「1.パチンコなどの低貸し玉の方に移られる人もいましたが、パチンコ

をやめた人も大勢います。こうしたファン離れの一番の問題は、やはり消費金額が高すぎるということが原因です。パチンコ・パチスロ業界がこのような厳しい状況になったのも、ひたすら射幸性を求めた結果、粗い機械でファンを疲弊させたことが原因だと思っています。

そこまで気が付いているならば、なぜもっと早く自主的にスペックダウンなり何なりの方策を採れなかったのかという疑問を呈する方もいると思います。早くから消費金額の少ない機械をつくるべきではなかったのかということも言われています。

ただ、MAX機に頼った機械を売ってきたので、ホールさんの方も売り上げが上がる、機械を選んで使われているということと、どうせ機械を買うのなら、利益がとれる機械がいい、ということになってしまいました。ついついここまで来てしまっ

たわけですが、その結果、ファンは大幅に減少しました。カジノ問題を引きっかけに、世間からは依存に対するケアはどうなっているのか、なものしないのか、と批判されるようになってしまいました。

MAX機からの脱却 スペックダウンし 消費金額も2割減に

われわれとしてはやっぱりこのままではいかんということと、まずは依存症を減らすためにスペックダウンをしようじゃないかということを決めました。まずは、2割。消費金額も2割減らすこと。これを目標に、今回の依存対策をまとめました。

具体的には、大当たり確率の下限を400分の1から360分の1へ、2割下げます。これにより、平均で大当たりまでの時間は、72分から58分へ、大当たりまでの使用金額は、約2割減るだろうと考えています。

——大当たり（初回大当たり）の最低出玉も決めましたね。

金沢 従来、大当たりになっても、なお出ないという機械があつて、ファンの不評を買っていました。これまでのファンで、まあそういうものか、とわかっていただければいいのですけれども、初めてのお客さまの場合、大当たりしているのに何で出ないのか、と疑問に思う人も多々いたと思います。ここはもっとわかりやすく、当たったら玉は出るという機械にしようではないかと考えました。これは考えてみれば当たり前の話です。

そこで、今回、大当たり（初回大当たり）の最低出玉を新たに決めました。具体的には、確率60分の1〜320分の1の機械の場合、初回大当たりの出玉は、「最大出玉の3分の1かつ下限600個」としました。最大出玉2400個の機械の場合、初回大当たりでは必ず800個、

最大1500個の機械の場合は、600個は必ず出るといふ機械になります。いずれにしても、こうして最初にある程度の玉を獲得することが、消費金額の低減にもつながるのではないかと思っています。

一人の金額減つても 機械の稼働が増え 売上げ落ちない

——スペック的には大幅ダウンです。大丈夫ですか。

金沢 ファンの方もホールさんも、大当たり確率が2割ダウンするといふことはそれだけ楽しみが減り、売り上げも2割落ちるといふことにならないか、これはもう大変なことになるのではないかと危惧されるかもしれません。

しかし、確率が2割ダウンすることによって消費金額が下がり、それによってファンは財布を痛めることなく遊技を楽しんでもらえるのではないかと。2割では足りないんじゃないかという声さえあります。ただ、あまり極端すぎても今のファンはある程度の射幸性の機械に慣れていますから、とりあえずわれわれは2割ダウンを決めました。ファンの消費金額が減つても機械の稼働

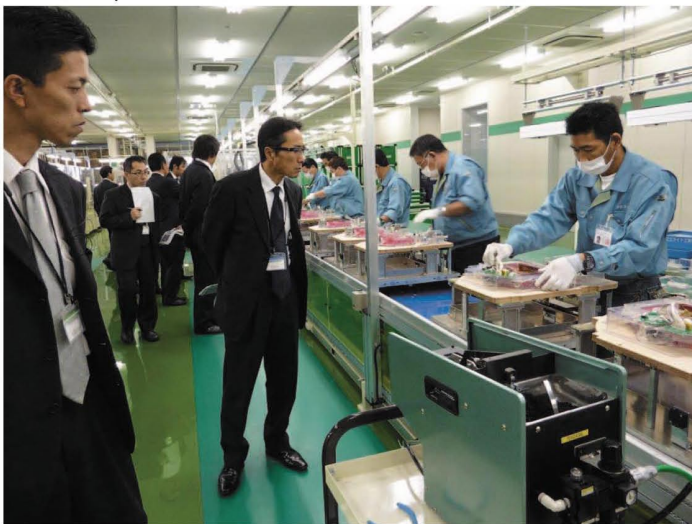
が増えれば、全体の売り上げは同じかさらに増えるかもしれません。あまり心配はいらないと思います。

仮にいまのMAX機がファンにほんとうに受け入れられていながら、ファンはもっとも増えるはずではありませんか。でも現実とは逆です。ファンは財布を痛め、もうMAX機では遊べなくなっている。世間から依存症と言われるような状態にまでなっています。

10月以降の旧機は 「使わない」ではなく 「流通控えてほしい」

——新しい機械の設置についてですが、10月31日までの開店設置までは、従来どおりの機械でもよろしいということですか。

金沢 今までの399分の1の機械の設置については、そのようにさせていたいただきました。実際の機械の流通段階では、製造



◀遊技機の生産に集中する三洋物産本社工場のスタッフ（名古屋市守山区）

納品は終わったものの、1か月、2か月、開店をしない場合もあります。型式申請が先に行われ、納品が1か月後という場合もあります。

いまずぐ実行というのではホールの間で不公平感が残り、かえって混乱を招くのではないかとということ、10月31日までの開店ということとを期限にさせていただきます。

——中古機流通の方はどんなことになりますか。

金沢 世間からはパチンコはギャンブルじゃないか、何が大量娯楽だ、とバッシングを受けています。

もっとスペックダウンすべきだという声に答えて、期限を10月までの開店ということに、日工組として決まさせていただきます。しかし世間から見れば、新台の開店も中古の開店もわかりません。ホール様には日工組から自分たちが作った機械を10月以

降使用のはまずいと言っているわけではなく、今回は「中古の流通」は控えてほしいといっているのです。

中古のきつい機械が いつまでも残つて ホールにあるのでは

——これはかなり難しい問題といえますね。ホールにしてみれば、すでに買ってある中古機は自分のもの、とやかく言われる筋合いはないとの意識もあると思います。

金沢 ただ、われわれもホールも、今ままで世間からバッシングを受け続けるわけにはいきません。なんでもっと早くそれに気づいて対処しなかったのだと言われれば、まさしくその通り。いまでも遅いくらいです。

中古は古いからといってスペックダウンしているということはありませんから、射幸性の高い機械がそのままホールに設置されて、ファンの前にきつい機械がいつまでも残るといふことになってはいけません。この辺りはホールの理解をいただいで、業界全体の取り組みとして現状を変えていかなければならないと思います。

広いジャンル意識し 各社が的を絞って 同時期に市場に

——業界の不安を取り除くという意味でも、それに代わる新しい遊技機の役割は大きいですね。

金沢 われわれとしても、399分の1から320分の1になったからといえ、ある程度、短時間での適度の射幸性とか、いろいろ工夫して開発していきますので、そんなにがっかりするようなものは出ないと思います。機械がみなつまらないものであったら、それこそホールの皆さまに買っていただけないだろうし、それではわれわれもやっていけません。

ここは日工組も一丸となって、320分の1でがんばっていきましょう。射幸性のアピールばかりではなく、ゲーム性でいく方法もあります。ゲーム性にしてもリーチが長すぎて当たらないという機械などもありましたので、その辺りを改善していくことでファンに納得してもらええる機械を作っていくと考えています。

開発及び提供」ということです。金沢 そうです。もともと多種多様な機械はありました。しかしわれわれとしては、やはり一番売れ筋のMAX機を作り続けたということ。パチンコファンはいろんなジャンルの機械を求めているのだと思います。そういう機械も開発していきます。ただ、全てのジャンルの機械を各社ばらばらに作るより、ある程度の絞って各社が開発し、同時期に市場にどっと提供し、市場の活性化も図っていかうと考えています。

遊べるスペックで 11月以降に並ぶ 全く新しい機械も

——各社が多種多様な機械を全部作るというのではなく、各社それぞれやりたい機械をつくるということですね。

金沢 そういうことです。メーカーには昔からそれぞれのカラーというものがあって、得意なものがありますので、メーカーの方でいろいろバラエティーに富んだ機械をつくっていくけば、おのずと豊富な種類がでけると考えています。



遊技産業活性化委員会で日工組の取り組みを説明する金沢理事長（右テーブル中央）

——それを同時期に市場に出すということですね。

金沢 10月いっぱいまでは、MAXの機械もありますので、こうした遊べるスペックをもつ機械が出るのは11月以降、むしろそれ以前でも構わないわけですが、本格的に出回るのは年明けごろからになるのではないかと思います。

——まったく新しいジャンルの機械というのもあるそうですね。

金沢 出玉率は261分の1ですが、確変中も小当たりが頻発し出玉を増やす機能のついた遊技機です。確変中に次の大当たりをただ待つだけでなく、出玉も増えるプラスアルファの楽しさを提供する新しい機械です。これは6月1日の開店設置ということになります。

日工組の社安研が 依存研究を活かし 全国規模の実態調査

——消費金額の抑制と多種多様な遊技機の提供、これらと並行して「広報による啓蒙活動の強化」を第3の柱に挙げていますね。

金沢 はい。日工組が支援している日工組社会安全財団は、もともと防犯上の多様な研究、調査をお願いしています。今回、最重要課題である依存問題についても、重要テーマとして長期にわたって研究していただくようお願いしています。

これに対して、財団の方でもいろいろな専門家の方に参加していただき、研究を進めているところです。すでに財団では2013年度から「パチンコ依存問題に関する研究」を行っています。14年度では学術的妥当性を有するパチンコ・パチスロの依存を測定する尺度（パチンコ・パチスロインベントリー「INVENT-ORV」）を開発しました。15年度からこの尺度を用いて依存に関する全国規模の実態調査を開始するとともに、問題解消・軽減に資する研究

を遂時実施し、提言を行うとしています。日工組としては、財団と連携して依存からの脱却及び再発防止に関わる対策を打っていききたいと思えます。

「エンド」はどこか それに合わせた スピード対応でした

——行政から依存問題で射幸性抑制の取り組みを促されたのが1月でした。それに対する日工組の対応策が出たのが3月。ずいぶん素早い対応でしたね。それだけ重いテーマであると言えば、その通りだと思いますが…。

金沢 機械作りは1年半から2年ばかりです。だから行くとそこそこ3か月ではできない、来年にはできない、来年の暮なら、ということになり、あつという間に時間ばかりが過ぎてしまいます。われわれは逆に、エンドはどこかというところから始めました。

それに合わせて組合員の皆様に理解していただいて、この取り組みを必ず実行することで失われたファンの方にも戻ってきていただけないか。そうならなくては、この産業を次世代の方々にもバトンタ

ッチしていけるような環境はできません。それでは業界の明日はないだろうということ、皆で一丸となつてやった、その結果だと思えます。

団体間協議では 時間がかかりすぎる 日工組が先に進んで

——他の団体と比べると、非常に対応が速いという印象です。

金沢 業界のいろんな団体で議論するのもいいですが、結論に至るのに非常に時間がかかります。日工組では、先々のことを考えるのであれば、最初は多少つまらないのではなか、出玉が以前より2割も少ないなんてと言われても、それが先々なつながると思つていきます。

活性化委員会での議論も注視しておりましたが、なかなか時間がかりそうだとするので、まずは日工組内で早急にいろいろ決めさせていただけたところ。新しいタイプの機械をどんどん導入していただき、ファンにも娯楽として楽しんでいただければ、射幸性に頼らなくてもやっていける。その自信はあります。

とはいえ、新しい機械をつくつても、ホールに導入していただけない

ては話になりません。今後はどういふふうに入力していただくかという話も日遊協の中で話をさせていただきたい。機械作りの日工組、そのお客様である全日遊連、横断的組織である日遊協で協議して、こういうふうに入っていかうじゃないかということになれば、それが一番いいと思つていきます。

東日本大震災に学んだ 経験も一つの理由 日遊協への団体加盟

——日工組の団体加入は日遊協としては大歓迎です。その意図はどういうところにあつたのですか。

金沢 日遊協に団体加盟しなくてはならないと思つたのは、遊技産業を取り巻く環境の変化です。東日本大震災の直後、業界は電気の無駄遣いとしてパッシングされました。われわれとしては、パチンコ・パチスロは人間の生きていく上で必要な娯楽を提供する誇りある産業だと思つていたのに、世の中に必要のない産業であると言われまして、世間にもかかわらず、世間に対して業界としてまとまった発信ができませんでした。個々の団体ではいろいろなことがあつたかわか

りませんが、その時、われわれの業界もひとつにまとまって発信できなかった状況は大きく変わったのではないかと考えました。

ただ、日工組はあくまでモノづくり企業の団体です。全日遊連はホールでファンに遊技を提供することを業とする企業の団体です。どこでやるのかということになると、それは業界横断的組織である日遊協ではないかと、こうなつたわけです。

横断的組織である 日遊協が先頭に立ち 「主張」を発信する

その後、カジノ法案などを巡ってパチンコ・パチスロがいろいろな意味で比較されるといふような事態に至り、それに伴い中傷や風評被害のようなことまで出てくるに及んで、やはり自分たちのことは自分たちで主張していかなくてはならない。あまりにもひどい言われ方に対しては、しつかりと、いや違います、実際はこうです、社会貢献にも一生懸命努力しています、というような主張を発信していかなくてはならないと考えるようになりました。

そういうことで、日工組の会員企業の間にはやはり横断的組織の日遊

協を先頭に、いい意味でのアピールをして行こうと考えるようになったわけです。これは日工組内の会員が全員一致でその通りだということとで行動した結果です。

われわれは日遊協に入ったからといえ、われわれの業界内のことを主張していこうというのではないのです。そうではなくて、広く世間に向けて遊技産業の主張を発信していく、その中心的な組織として日遊協により活発な活動を期待しているということなのです。

どちらが上ではなく 団体の立場を超え ものづくりに反映

——日遊協と取り交わした「団体加入に関する合意書」では、定期的な意見交換とか、広報活動、イベントなどでの協働などが盛り込まれています。

金沢 それぞれの団体には、お互い立場というものがありません。しかし、団体加盟に関して、日遊協が上で日工組が下になったというようなことを言っている場合ではないのです。行政に相談する上でも、日遊協を中心としていろいろ相談しているかねばならないことはたくさんあ

ると思います。

そういう意味では業界がひとつになってやるべき時であり、誰もがそれが当り前だ、と思っ

ていると思います。いままでの業界団体の歴史、過程があるもの

ですから、なかなか一緒にな

りにくいということはあるとは思

いますが、そこはもう乗り越

えなくてはいけません。

今後機械のことはわれわれ日工組にお任せいただき、その間の、ファンに喜んでいただける健全な娯楽の環境というものは、横断的な組織である日遊協とディスカッションしながら作り上げていきたいと思っ

ています。また、そうした議論の成果を、われわれのものづくりに反映出来たらいいなと思っています。

ホールに出かけて スマホにはない 楽しさがあるはず

——これからの遊技機についてどのようなお考えをお持ちですか。

金沢 以前は大学生とか若いサラリーマンには、よくパチンコ・パチスロで遊んでいたいただきました。ところがいま、学生さんに聞いてもパチンコやる人はほとんどいません。



質問者の突っ込み質問にも持ち前の明るさでかわす金沢理事長▶

10人聞いたら、やったことがあるという人が1割くらい。やっているという人が1割くらい。残りはパチンコ・パチスロ自体を知らないという人たちです。どうしてそうなっ

てしまったのか。お金がかかり過ぎて、手を出せないといっています。

いまの若い人の小遣いの大半は、スマホなどに消えています。スマホはいろいろなゲームの媒体でもあるわけで、わざわざホールにまで出かけて行くこともないということになってしまふ。ただ、ホールで味わうパチンコ・パチスロの醍醐味は、スマホのゲームでは味わえないものがあります。

お金がかかり過ぎず 休眠層を惹きつける ゲームになってこそ

消費金額がかかり過ぎることが

まず一番の問題です。いろんな層の方が楽しめる、消費金額の少ない機械もあって造っていかないと、ファンは戻って来てはくれないと思います。休眠層の方たちには、パチンコ・パチスロとも、低貸し玉の機械などがあるとよく遊んでいた

だけるようです。最近では、短時間で遊べる機械というのがあります。身近にあつて、手軽に遊べるという意味ではいいと思いますが、これも手短にしてはお金がかかり過ぎるのではないかと思います。われわれは、全体としての消費金額を抑えながら、誰もが楽しめる多種多様な機械を作っていく必要があります。

——ホール現場での営業もそれに続いて欲しいというわけですね。

金沢 以前からそうでしたが、日工組としては、お客様である全日遊連に対してああたこうだとはなかなか言いにくい。でも、いまはそれと言わないといけない。そのためには、日遊協にみんなで集まったところで話し合うということが必要なのではないかと思ひます。

——全くその通りだと思います。本日は、ありがとうございます。